



日本 BS 放送株式会社

2024 年 8 月期第 2 四半期決算説明会

2024 年 4 月 17 日

イベント概要

[企業名] 日本 BS 放送株式会社

[企業 ID] 9414

[イベント言語] JPN

[イベント種類] 決算説明会

[イベント名] 2024 年 8 月期第 2 四半期決算説明会

[決算期] 2024 年度 第 2 四半期

[日程] 2024 年 4 月 17 日

[ページ数] 29

[時間] 16:00-17:00
(合計：60 分、登壇：45 分)

[開催場所] インターネット配信

[登壇者] 1 名
代表取締役社長 近藤 和行 (以下、近藤)

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



登壇

山本：皆様、こんにちは。本日は日本 BS 放送株式会社、ウェブ説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

まず、はじめに本日の出席者をご紹介します。代表取締役社長、近藤和行です。私は営業局の山本です。本日は司会を務めさせていただきます。どうぞ、最後までよろしくお願いいたします。

本日の進行ですが、社長の近藤より決算概要等についてご説明させていただきます、その後、質疑応答へと進んでまいります。

それでは、これより会社説明へ移らせていただきます。近藤社長、よろしくお願いいたします。

近藤：本日はお忙しい中、日本 BS 放送、BS11 の 24 年 8 月期第 2 四半期決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。代表取締役社長の近藤です。

この 24 年 8 月期は 2020 年の新型コロナウイルス発生から 4 年が経ちました。その間、人々の行動様式が大きく変わったり、経済活動が元に戻っていく中で、メディアを取り巻く環境は極めて大きく変化している時代に入ったと認識しております。

その中で BS11 は、大きく三つテーマを掲げております。一つ目は総合編成を行っているテレビ局として、信頼できるメディアを目指すことです。二つ目は後にご説明いたしますが、当社の重点施策として掲げている Value3 を推進していくこと。三つ目は近年、東京証券取引所などから要請が出ておりますが、資本コスト、あるいは株価を意識した経営の実現に向けて、市場との対話を強化していくこと。この三つであります。

この三つをテーマに、BS11 は今期さまざまな取り組みを行ってまいります。本日は、どうぞ最後までお付き合いいただけますと幸いです。

では、ご覧いただいておりますスライドの項目に沿ってお話を進めさせていただきます。まずは会社の基本情報について説明いたします。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



2022年に開局15周年を迎えた、全国無料のBSテレビ局です。

会社概要	
本社	東京都千代田区神田駿河台 二丁目5番地
事業内容	全国無料のBSハイビジョン放送“BS11”チャンネルの運営
代表者	代表取締役会長 齋藤 知久 代表取締役社長 近藤 和行
設立	1999年8月
資本金	41億9千万円（2024年2月29日現在）
従業員数	133名（連結）（2023年8月31日現在）



© Nippon BS Broadcasting Corporation.

4

当社は東京御茶ノ水に本社を構える、全国無料放送のBSテレビ局です。地上波キー局系のBS放送は2000年に始まっており、わが社は7年遅れの2007年12月にスタートしています。いわゆる後発組ではございますが、2022年には開局15周年を迎えることができました。

まず経営理念は、「質の高い情報を提供することで人々に感動を与え、幸せな世界づくりに貢献します。」、経営ビジョンは「豊かで癒される教養娯楽番組と、中立公正な報道、情報番組を発信し、価値ある時間を約束します。」、そうした経営理念とビジョンの下で、番組の制作や放送を行っております。

当社の沿革につきましてご紹介いたします。当社は1999年、データ放送の時代、ビックカメラによって設立され、2007年からBSデジタルハイビジョン放送を始めました。その後2014年に東京証券取引所へ上場、一昨年22年の市場再編を経て、現在は東京証券取引所のスタンダード市場に上場しております。

次に、BS放送事業についてご説明いたします。BSとは、放送衛星を利用した放送のことです。東経110度に打ち上げられた衛星に向けてデータを送出、アップリンクしまして、その衛

サポート

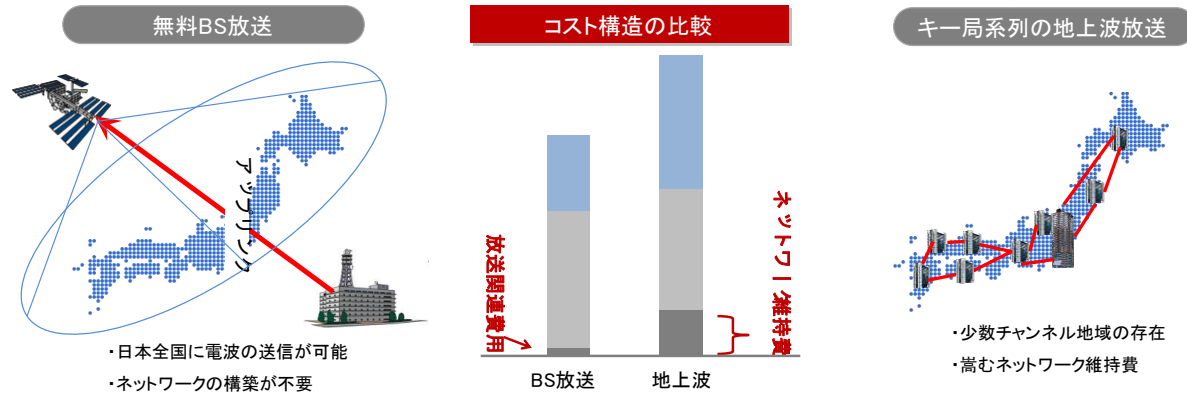
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



星から各家庭のパラボラアンテナを経由して、番組を視聴することができる仕組みになっております。

BS放送事業について

BS11日本BS放送



全国無料BS放送局											
グループ会社	日本テレビ	テレビ朝日	TBS	テレビ東京	フジテレビ	ビックカメラ	三井物産	松竹・東急	ジャパネット	吉本興業	放送大学
放送局	BS日テレ	BS朝日	BS-TBS	BSテレ東	BSフジ	BS11	BS12	BS松竹東急	BSJapanext	BSよしもと	BSキャンパスex BSキャンパスon
系列	地上波系列					独立系			公共		
開局年月	2000年12月					2007年12月		2022年3月		2011年11月	
グループ	“無料BS放送6局”として視聴状況調査を実施（～2020年3月）、 共同で『メディアガイド』を作成するなどBS放送の価値向上に向けた 取り組みを実施。										

© Nippon BS Broadcasting Corporation.

7

近年のテレビはBSデジタルアンテナチューナーがほぼ内蔵されていることが多く、2020年の調査時点でのBSの普及率は、全世帯の7割超まで進んでいる状況でございます。

BS放送と地上波放送は何が異なるのか。ただ今申し上げましたように、衛星を経由しているか否かによって違います。地上波放送は電波塔を経由して電波を繋いでいく仕組みですが、BS放送は衛星を経由して全国1波で番組を家庭にお届けできる。

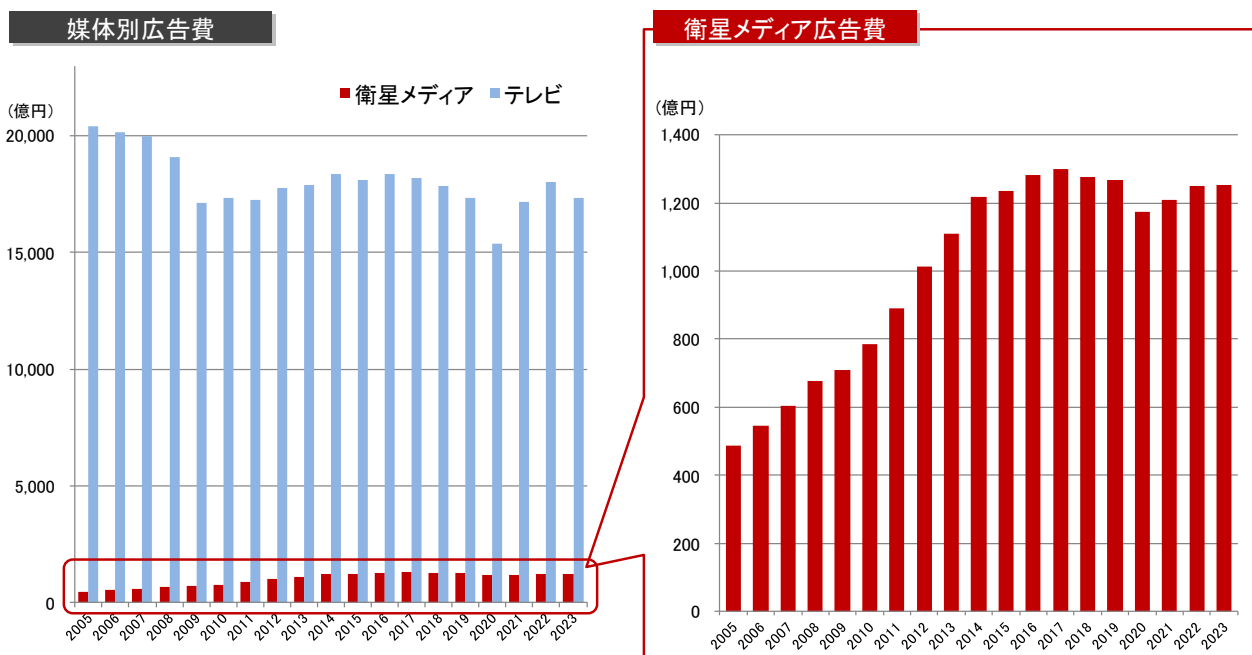
そうすると何が違ってくるかというと、コスト構造に大きな違いが出てきます。電波塔等のネットワーク維持費がBS放送はかからないということで、地上波と同じ番組とかCMを流す場合でも、よりコストを抑えて効率良く放送することができる。そういう特性があります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



2020年のコロナ禍を経て2021年以降は回復傾向



(出所) 電通「2023年 日本の広告費」※ 衛星メディアにはBS放送、CS放送、ケーブルテレビが含まれる

ご覧いただいています左の青いグラフ、これはテレビ広告全体の推移を示しております。そして右側に拡大しております赤いグラフ、これは私たちのBSにCS、いわゆる通信衛星を加えた衛星メディア全体の広告費の推移となっております。

2020年に新型コロナウイルスが発生したときには、地上波、衛星放送ともに市況の落ち込みが見られましたけれども、2021年以降は徐々に回復傾向にあることが分かります。

テレビ広告全体でおよそ2兆円の広告出稿市場がありますが、広告出稿に関しては費用対効果がますます重要視されている昨今です。そんな中、全国一歩で相対的に安価に番組やCM、コマーシャルを届けることができる。そういう衛星メディア・衛星放送のメリットをより理解していただければ、今後も十分にBSメディアの市況を拡大していけると考えております。

続きまして当社BS11の特徴についてご説明いたします。一つ目は、キー局系に属さない独立系の放送局です。だからこそ自由なコンテンツの制作、展開、編成が可能になっている特徴がまずございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



二つ目はドラマ、アニメ、競馬、さまざまな多岐にわたるラインナップ編成によって、若い方から年配の方まで、幅広い年齢層の視聴者にご視聴いただいていることです。

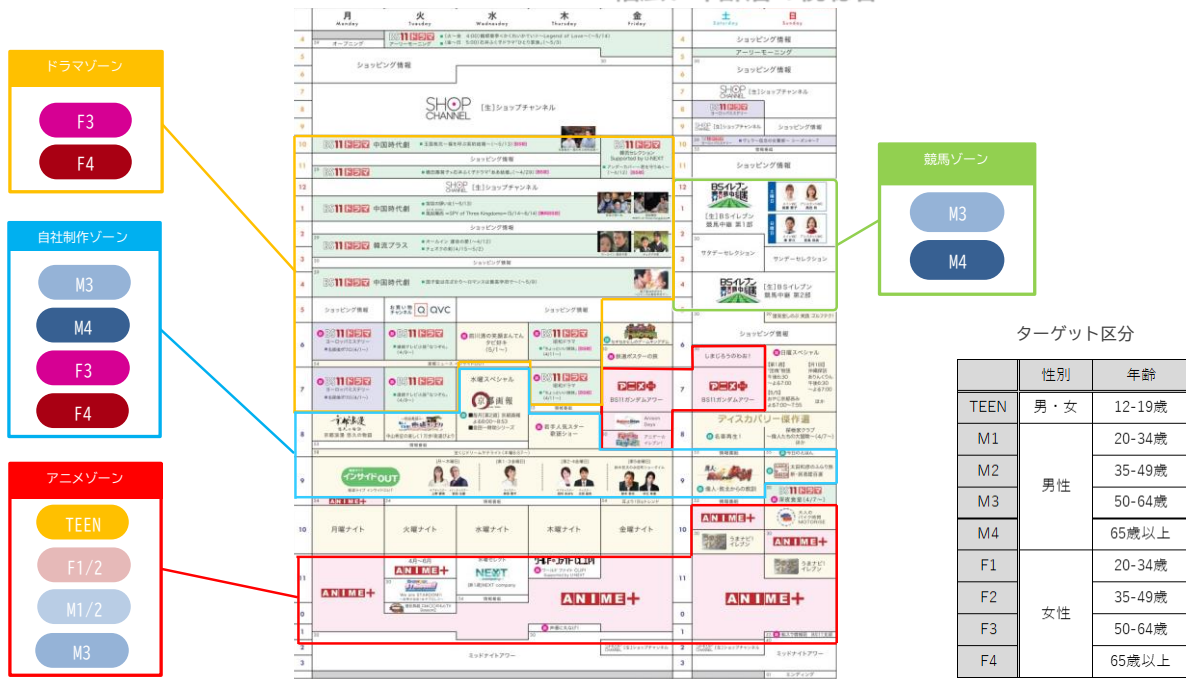
三つ目が、親会社が家電量販店のビックカメラであることです。当社が発信する番組コマースの放送に加えて、ビックカメラの店頭で消費者への直接的なコンタクトポイントが持てる。そういうリアルな接触が持てるという企画を展開できる特徴があります。そこがキー局系とは大きく異なる点だと考えています。

これら三つの主な特徴によって、多くのクライアントや視聴者の皆様には選ばれるテレビ局、そうしたかたちでこれまで成長を続けてまいりました。

タイムテーブル

BS11 日本BS放送

BS11では曜日・時間帯ごとで視聴者ニーズに応える編成を実施
そのため、他民放BS局と比較しても**幅広い年齢層の視聴者**が存在する



ターゲット区分

	性別	年齢
TEEN	男・女	12-19歳
M1	男性	20-34歳
M2		35-49歳
M3		50-64歳
M4		65歳以上
F1	女性	20-34歳
F2		35-49歳
F3		50-64歳
F4		65歳以上

(2024年4月クール編成表)

© Nippon BS Broadcasting Corporation.

10

ご覧いただいているのは、4月クールのタイムテーブルです。当社は地上波ネットワークに属していない独立放送局のため、当社独自の自由な編成が可能となっています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

平日の日中帯は、主に女性の50歳以上、F3、F4層といった主婦層をメインターゲットとして、ドラマゾーンを編成しております。土日の日中帯では、M3、M4層、主に50歳以上の男性を想定した、競馬の生中継を配置しております。

ゴールデン、プライムといわれる夜帯ですが、ここは自社制作の報道番組、あるいは紀行番組を編成しており、深夜には業界屈指の多数のアニメコンテンツを放送しております。

このようにそれぞれの時間帯、視聴者層に合った番組編成を行うことで、幅広い層の視聴者の皆様に番組を視聴いただいております。

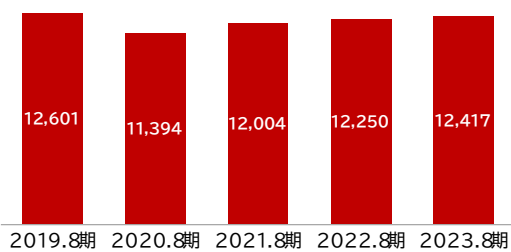
さらに2018年には出版社である理論社、国土社の2社の株式を100%取得して、連結子会社化しております。現在は両社のIPを生かした映像コンテンツを制作し、放送や配信しております。両社とも協業を積極的に、これからも推進していきたいと思っております。

ここで、当社の業績の推移についてご説明いたします。

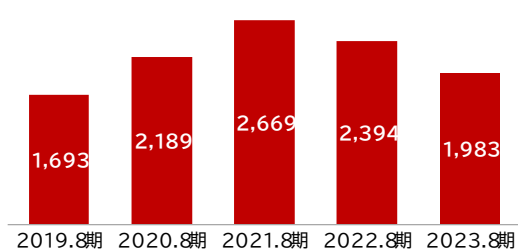
業績推移

BS11日本BS放送

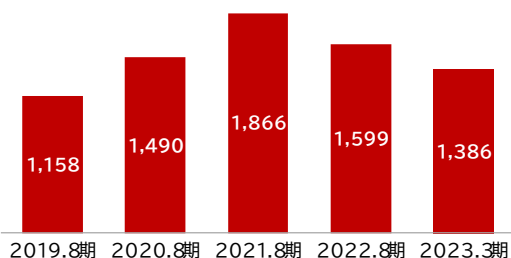
売上高(百万円)



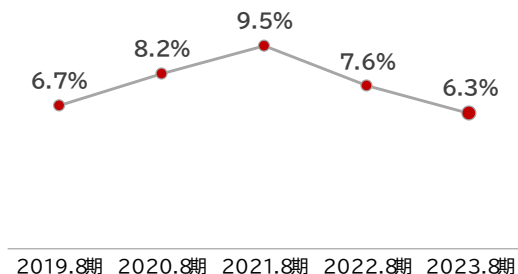
営業利益(百万円)



親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)



ROE(%)



© Nippon BS Broadcasting Corporation.

12

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

SCRIPTS
 Asia's Meetings, Globally

売上に関しましては新型コロナウイルスの影響を受け、2020年8月期に前期比で減収となりましたが、以降は回復傾向を続けております。直近の23年8月期、連結ベースで124億円の売上を達成することができました。

営業利益、あるいは当期純利益につきましてはコストコントロールを徹底しながら、一方でコンテンツへの投資は積極的に行っている状況です。

このほか自己資本利益率、ROEは23年8月期で6.3%となっております。後ほど詳しくご説明いたしますけれども、広告市況が弱含んでいる中、当社は放送事業を引き続き収益の柱としつつも、配信等をはじめとした放送外の事業を積極的に展開しております。業績拡大に向けて、さらに企業活動を展開していきたいと考えております。

人的資本に関する取り組み

BS11 日本BS放送

人的投資を「人材の多様性による独自性の創出」を目的とした
成長投資として戦略的に位置付け

人財戦略を支える基本方針 「社内人材の育成と能力開発」「外部専門人材の活用」「女性活躍推進」

具体的な施策

① ダイバーシティの確保

中途採用者：80%以上

女性社員割合：37.8%

女性管理職割合：27.6%

↓

「コンテンツの多様性を支える」
「人材の多様性を重視」

② 人材育成

＜重点方針＞

人材の力を高め、コンテンツ中心の
ビジネスを追求し続ける集団への進化

「Go!Forward」戦略の3本柱

社員がチャレンジできる社内風土の強化

リーダー層のマネジメント力の強化

会社の将来を担う若手社員の成長加速

③ 社内環境整備

社員一人ひとりが持つ力を
引き出す労働環境

フレックスタイム制度

時短勤務制度

在宅勤務制度

© Nippon BS Broadcasting Corporation.

13

最後に、当社の人的資本に関する取り組みについてご説明いたします。当社では人的投資を人材の多様性による独自性の創出を目的に、大切な成長投資と位置づけております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

基本方針は記載の通りですが、具体的な施策といたしましては中途採用、女性社員の割合を重視したダイバーシティの確保、あるいはリーダー層のマネジメントや若手社員の成長強化を掲げた人材育成。最近ではフレックスタイムや在宅勤務制度の拡充、多様な働き方を行うことで、社員のパフォーマンス向上を支える。そういう社内環境整備を進めてまいりたいと思っております。

2024年8月期 第2四半期決算 業績ハイライト (連結・個別)

BS11日本BS放送

2024年8月期 第2四半期(連結)

売上高 **5,936百万円**(前年同期比 1.7%減↓)

営業利益 **927百万円**(前年同期比 16.4%減↓)

2024年8月期 第2四半期(個別)

売上高 **5,547百万円**(前年同期比 3.0%減↓)

営業利益 **920百万円**(前年同期比 19.4%減↓)

© Nippon BS Broadcasting Corporation.

15

続きましては、2024年8月期の第2四半期の業績についてご説明したいと思います。ご覧いただいているのは第2四半期の業績ハイライトでございます。連結、単体とも減収減益という内容ですが、ポイントは営業利益の前年比の減益幅は2桁ですけれども、予算ベースですと計画を上回るペースで積み上げてきている現状でございます。その内容については、これから説明したいと思います。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

 **SCRIPTS**
Asia's Meetings, Globally

売上高は**5,936**百万円（前年同期比1.7%減）、営業利益は**927**百万円（前年同期比16.4%減）、
親会社株主に帰属する四半期純利益は**642**百万円（前年同期比15.0%減）

（単位：百万円、下段は売上比）

	2023年8月期 第2四半期 累計	2024年8月期第2四半期累計						主な増減要因（前年同期比）
		実績	前年 同期比	増減額	計画	計画比	増減額	
売上高	6,041 (100.0%)	5,936 (100.0%)	△1.7%	△104	5,982 (100.0%)	△0.8%	△46	
売上総利益	2,942 (48.7%)	2,768 (46.6%)	△5.9%	△174	— (—)	—%	—	(売上高) ・放送事業収入：△134百万円 ・その他収入：△38百万円 ・その他収入(子会社) +68百万円
営業利益	1,109 (18.4%)	927 (15.6%)	△16.4%	△182	826 (13.8%)	12.2%	101	(売上原価) ・減価償却費：+143百万円
経常利益	1,109 (18.4%)	930 (15.7%)	△16.2%	△179	826 (13.8%)	12.6%	104	
親会社株主に帰属 する四半期純利益	755 (12.5%)	642 (10.8%)	△15.0%	△113	570 (9.5%)	12.6%	72	

理論社、国土社と合わせた連結業績についてでございます。中間期の売上高は59億3,600万円で、前年同期比では1.7%減と少し足りませんでした。計画比、予算比でも0.8%のわずかな未達となっております。放送収入が減収となった一方で、子会社の出版2社の売上が前年同期比で好調に推移いたしております。

営業利益に関しましては9億2,700万円で、同じく16.4%の減、未達でございます。ただ先ほど申しましたように計画比、予算比では営業利益12.2%の達成超過です。当期純利益は6億4,200万円で、前年同期比では15%の減ですが、これも計画比では12.6%の超過と順調に積み上がっている次第でございます。

営業利益に関しては2023年、去年の4月に実施しましたスタジオ設備の改修に伴う償却負担の増加で、前年同期比で減益となりましたが、計画比では番組関連費用、放送関連費用が抑制できたほか、子会社の収益の改善等によって2桁の増加となりました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

貸借対照表/キャッシュ・フロー計算書の概要（連結）

貸借対照表		(単位:百万円、下段は構成比)			キャッシュ・フロー計算書		
		2023年8月期末	2024年8月期		2023年8月期 第2四半期累計	2024年8月期 第2四半期累計	
			第2四半期末	前年増減額			
流動資産	16,669	16,977	307	営業キャッシュ・フロー	691	1,184	
	(67.3%)	(68.4%)			税金等調整前四半期純利益	1,109	930
固定資産	8,086	7,829	△256	減価償却費	160	300	
	(32.7%)	(31.6%)		売上債権の増減額(△は増加)	280	369	
資産合計	24,756	24,807	50	仕入債務の増減額(△は減少)	50	22	
	(100.0%)	(100.0%)		未払金の増減額(△は減少)	△170	△237	
流動負債	2,018	1,890	△128	法人税等の支払額	△338	△234	
	(8.2%)	(7.7%)		投資キャッシュ・フロー	△799	△9	
固定負債	131	131	0	有形固定資産の取得による支出	△791	△5	
	(0.6%)	(0.5%)		財務キャッシュ・フロー	△326	△463	
負債合計	2,150	2,021	△128	配当金の支払額	△355	△462	
	(8.8%)	(8.2%)		現金及び現金同等物の増減額	△434	711	
純資産合計	22,606	22,785	179	現金及び現金同等物の期首残高	14,456	13,599	
	(91.2%)	(91.8%)		現金及び現金同等物の四半期末残高	14,022	14,310	
負債・純資産合計	24,756	24,807	50				
	(100.0%)	(100.0%)					

連結の貸借対照表、バランスシートはご覧のとおりです。総資産は248億700万円、純資産は利益剰余金の計上によって、227億8,500万円となりました。

キャッシュ・フローの状況についてご説明いたします。営業活動によるキャッシュ・フローは11億8,400万円のキャッシュインとなりました。着実に純益を積み上げてきた結果でございます。

続きまして、投資キャッシュ・フローにつきましては900万円のキャッシュアウトとなりました。前年は大規模なスタジオ設備更新を実施し、これはわが社にとって大きな設備投資でした。今期は大きな設備投資は実施しておりません。

三つ目の財務キャッシュ・フローは、4億6,300万円のキャッシュアウトとなりました。株主還元施策強化の一環として増配いたしましたので、その配当金の支払が主な要因でございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

損益計算書の概要（個別）

売上高は**5,547**百万円（前年同期比3.0%減）、営業利益は**920**百万円（前年同期比19.4%減）、
四半期純利益は**638**百万円（前年同期比19.2%減）

（単位：百万円、下段は売上比）

	2023年8月期 第2四半期 累計	2024年8月期 第2四半期累計						
		実績	前年 同期比	増減額	計画	計画比	増減額	主な変動要因（前年同期比）
売上高	5,720 (100.0%)	5,547 (100.0%)	△3.0%	△172	5,731 (100.0%)	△3.2%	△183	・タイム収入の増加・・・+15百万円 ・スポット収入の減少・・・△149百万円 ・その他収入の減少・・・△38百万円
売上総利益	2,804 (49.0%)	2,577 (46.5%)	△8.1%	△227	— (—)	—%	—	
営業利益	1,141 (20.0%)	920 (16.6%)	△19.4%	△221	874 (15.2%)	5.2%	45	(段階利益) 売上高が前年同期比減 番組関連費用・放送関連費用の 効率的な使用 放送設備償却負担増等による減少
経常利益	1,143 (20.0%)	924 (16.7%)	△19.2%	△219	874 (15.2%)	5.7%	50	《利益減少の具体的要因》 売上原価
四半期純利益	789 (13.8%)	638 (11.5%)	△19.2%	△151	603 (10.5%)	5.8%	35	・2022年10月～2023年3月にかけて 実施したスタジオ設備更新に伴う 償却負担

続きまして個別の業績についてご説明いたします。売上高は記載のとおり 55 億 4,700 万円、前年同期比で 3.0% 足りず、減。計画比でも 3.2% の未達となっております。タイム収入が好調だった一方で、スポット収入、その他収入が弱含んだ結果です。

営業利益につきましてはアニメコンテンツの強化と充実を図る一方で、番組関連費用、放送関連費用を効率的に運用した結果、23 年 4 月のスタジオ設備更新に伴う減価償却負担の増を吸収することができました。その結果、営業利益は 9 億 2,000 万円、前年同期比だと 19.4% 減ですが、計画比、予算に対しては 5.2% 超と、利益は着実に積み上がっている状況でございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

売上区分別実績（個別）

	2023年8月期 第2四半期累計	2024年8月期 第2四半期累計			
		実績	前年同期比	計画	計画比
売上高	5,720 (100.0%)	5,547 (100.0%)	△3.0%	5,731 (100.0%)	△3.2%
タイム収入	3,994 (69.8%)	4,009 (72.3%)	0.4%	4,106 (71.7%)	△2.4%
スポット収入	1,314 (23.0%)	1,164 (21.0%)	△11.4%	1,199 (20.9%)	△2.8%
その他	411 (7.2%)	373 (6.7%)	△9.3%	425 (7.4%)	△12.3%

主な増減要因（前年対比）

- **タイム収入**
通販枠の強化・拡充を行い、前年同期比0.4%で着地
- **スポット収入**
新規取引先の開拓等、セールス活動強化により純広スポットが好調に増加した一方、引き続き市況低迷の影響により通販スポットが減少、前年同期比△11.4%
- **その他**
イベント収入が好調に推移するも、前年同期の人気アニメ作品の出資配当収入反動減により、前年同期比△

第2四半期の個別の売上高につきまして、売上セグメント別にご説明します。タイム収入に関しましては、通販枠の強化、拡充を行いまして、前年同期に比べて0.4%増の40億900万円を着地いたしました。

一方、スポット収入は全体では新規取引先の開拓等、セールス活動を強化したことで純広スポットは好調に推移しましたが、一方で通販に関する通販スポットは市況が引き続き軟調です。その影響を受けまして、全体では前年同期比11.4%減の11億6,400万円となっております。

その他収入は番組関連イベント等のイベント収入が好調でしたが、前年は人気アニメ作品の配当収入が非常に良く、その反動減があり、全体では前年同期に比べて9.3%減の3億7,300万円にとどまっております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

主要費用項目実績（個別）

	2023年8月期 第2四半期累計	2024年8月期 第2四半期累計		
		実績	前年同期比	主要な増減要因
番組関連費用(原価)	1,867 (32.6%)	1,830 (33.0%)	△1.9%	
番組購入費	200 (3.5%)	151 (2.7%)	△24.3%	編成戦略に基づくアジアドラマの放送枠変更による減少
番組制作費	1,666 (29.1%)	1,678 (30.3%)	0.7%	
放送関連費用(原価)	321 (5.6%)	276 (5.0%)	△13.8%	
放送委託費	264 (4.6%)	254 (4.6%)	△3.9%	
技術費	56 (1.0%)	22 (0.4%)	△59.9%	前年のスタジオ設備更新に伴う費用の反動減
広告関連費用(販管費)	413 (7.2%)	406 (7.3%)	△1.7%	
広告宣伝費	387 (6.8%)	380 (6.9%)	△1.8%	
販売促進費	26 (0.5%)	26 (0.5%)	-%	

同じく第2四半期、中間期での費用の状況についてご説明します。まず原価部門です。番組関連費用は18億3,000万円で、前年同期に比べて1.9%減となりました。編成戦略に基づき、アジアドラマの放送枠の変更を効率的に進めました。内訳の番組購入費は、前年同期に比べて24.3%減の1億5,100万円と抑制できたことが、主な要因です。

番組制作費に関しましては、引き続き人気アニメコンテンツの製作委員会への積極参加によって16億7,800万円、前年同期比では0.7%と、わずかに増えた状況です。

放送関連費用につきましては2億7,600万円、前年同期比13.8%の減少となりました。去年の4月、スタジオ設備を更新した際に、スタジオを別途代替で確保する必要があり、その費用が膨らんでいましたが、今期はスタジオ設備更新が実現したため、この関連費用については大きく減少し、その分費用は減ったという内容でございます。

原価に続いて、販管費です。ここに関しましては広告関連費用が4億600万円、前年同期に比べて1.7%減となりました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

貸借対照表の概要（個別）

	2023年8月期末	2024年8月期第2四半期末		
		第2四半期	前年増減額	主な増減要因
流動資産	16,103 (66.6%)	16,516 (67.8%)	412	現金及び現金同等物の増加 +658百万円
固定資産	8,091 (33.4%)	7,835 (32.2%)	△255	スタジオ設備更新に伴う、機械装置ほか減価償却累計額の増加 △215百万円
資産合計	24,195 (100.0%)	24,352 (100.0%)	156	
流動負債	1,567 (6.5%)	1,548 (6.4%)	△19	
固定負債	127 (0.5%)	128 (0.5%)	0	
負債合計	1,694 (7.0%)	1,676 (6.9%)	△18	
純資産合計	22,501 (93.0%)	22,676 (93.1%)	174	繰越利益剰余金 +174百万円
負債・純資産合計	24,195 (100.0%)	24,352 (100.0%)	156	

個別の貸借対照表はご覧のとおりです。総資産は243億5,200万円、純資産は利益剰余金の計上なんかによりまして、226億7,600万円となっております。

以上が24年8月期第2四半期の決算業績でございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

売上高は12,600百万円(前期比1.5%増)、営業利益は1,910百万円(前期比3.7%減)、
親会社株主に帰属する当期純利益は1,318百万円(前期比4.9%減)を計画

償却負担の増加等によるコスト増を見込むため前期比減

(単位:百万円、下段は売上比)

	2023年8月期		2024年8月期				
	第2四半期 累計	通期	第2四半期累計		通期計画		
			実績	前期比	計画	前期比	増減額
売上高	6,041 (100.0%)	12,417 (100.0%)	5,936 (100.0%)	△1.7%	12,600 (100.0%)	1.5%	182
営業利益	1,109 (18.4%)	1,983 (16.0%)	927 (15.6%)	△16.4%	1,910 (14.5%)	△3.7%	△73
経常利益	1,109 (18.4%)	2,015 (16.2%)	930 (15.7%)	△16.2%	1,910 (14.5%)	△5.2%	△105
親会社株主に帰属 する当期純利益	755 (12.5%)	1,386 (11.2%)	642 (10.8%)	△15.0%	1,318 (10.0%)	△4.9%	△68

© Nippon BS Broadcasting Corporation.

23

続きまして、24年8月期の通期計画についてご説明します。まず連結の通期計画につきましては、売上高は126億円、前期比1.5%増。営業利益は19億1,000万円、前期比3.7%減。経常利益は19億1,000万円、同じく前期比5.2%減。当期純利益は13億1,800万円、前年比で4.9%減ということで、期初の通期予想を据え置いております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

売上高は11,900百万円（前期比2.4%増）、営業利益は1,900百万円（前期比3.6%減）、
当期純利益は1,311百万円を計画（前期比3.8%減）

（単位：百万円、下段は売上比）

	2023年8月期		2024年8月期				
	第2四半期 累計	通期	第2四半期累計		通期計画		
			実績	前期比	計画	前期比	増減額
売上高	5,720 (100.0%)	11,625 (100.0%)	5,547 (100.0%)	△3.0%	11,900 (100.0%)	2.4%	274
タイム収入	3,994 (69.8%)	8,288 (71.3%)	4,009 (72.3%)	0.4%	8,544 (71.8%)	3.1%	255
スポット収入	1,314 (23.0%)	2,563 (22.0%)	1,164 (21.0%)	△11.4%	2,457 (20.6%)	△4.1%	△106
その他	411 (7.2%)	773 (6.7%)	373 (6.7%)	△9.3%	898 (7.6%)	16.1%	125
営業利益	1,141 (20.0%)	1,970 (17.0%)	920 (16.6%)	△19.4%	1,900 (16.0%)	△3.6%	△70
経常利益	1,143 (20.0%)	1,974 (17.0%)	924 (16.7%)	△19.2%	1,900 (16.0%)	△3.8%	△74
当期純利益	789 (13.8%)	1,362 (11.7%)	638 (11.5%)	△19.2%	1,311 (11.0%)	△3.8%	△51

© Nippon BS Broadcasting Corporation.

24

続きまして個別の通期計画についてご説明します。売上高は119億円、前期比2.4%増、営業利益は19億円、前期比3.6%減。経常利益は19億円、前期比3.8%減。当期純利益は13億1,100万円、前期比3.8%減を計画しております。

今期は外部要因としてスポット市況が弱含んでいる影響を受けており、内部要因としては約10年サイクルで発生する放送設備の更新に伴う減価償却費の影響を大きく受けており、コストは比較的大きく計上しないと見込めない期でございます。

そうした厳しい状況をカバーすべく、タイムセールスを中心とした放送事業では、新規のクライアントの開拓、既存クライアントの取引の促進、クライアント様のきめ細やかな要望に対応することで販売の強化を引き続き行っていきたく思っております。

そのほか自社制作番組の販売、あるいはコンテンツの様々なプラットフォームを利用した配信、あるいは関連するイベントの推進、アニメ関連コンテンツへの投資等を積極的に展開してまいりたいと思っております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



「6つの力」を具現化する重点施策を
新たに「Value3」と位置づけ推進

VALUE I. コンテンツ価値の最大化
マルチ展開可能なコンテンツの創造力強化

VALUE II. 投資最適化へ向けた意識改革
ポストコロナ・ポストデフレ時代を見据えた取組みの徹底

VALUE III. 放送周辺事業の強化と発展
アニメ・配信事業を軸とした積極的な事業展開

続きまして、当社の基本戦略についてご説明します。当社は今期の基本戦略、重点施策として、6つの力と Value3 を掲げております

6つの力とは実行力、改革推進力、戦略構築力、変化対応力、マーケティング力、企画力を指しており、社員の知恵と知識を結集して、戦略を強力に実行していくことを掲げております。

一方の Value3 とは、ただ今申し上げました6つの力を具現化するための重点施策でございます。上から順番にコンテンツ価値の最大化、投資最適化へ向けた意識改革、放送周辺事業の強化と発展の三つを掲げております。

この基本戦略、重点施策は冒頭お話ししたポストコロナ・ポストデフレといった本格的なインフレ社会を見据え、それらに対応すべく、マルチ展開可能なコンテンツの創造力の強化、あるいはアニメ配信事業の積極的な事業展開を進めてまいりたいと思っております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

1.コンテンツ価値の最大化

＞自社制作番組

BSの視聴者層にマッチしたゆったり見られる紀行番組やコアな視聴者層向けの番組など、視聴者とクライアントのニーズに合った様々な自社制作番組をお届け

紀行・教養



毎週火曜日 よる8時～



毎週日曜日 よる9時～



毎週土曜日 よる9時～

スポーツ



毎週土・日曜日 正午～(第1部)
午後4時～(第2部)

エンタメ



毎週金曜日 よる6時～



毎週日曜日 よる10時～

報道



毎週月～金曜日 よる9時～



毎月第1週 水曜日 よる11時～

© Nippon BS Broadcasting Corporation.

27

これら三つの重点施策の下で、今期24年8月期の上期に実施しました番組の施策についてご説明します。まずは当社の自社制作番組についてです。

当社では報道のほか、紀行・教養、スポーツ、エンタメといった幅広いジャンルの自社制作番組をレギュラー放送しております。このページでは上期に放送いたしました、自社制作によるレギュラー番組の一部を掲載しております。

追加でコメントしますと、歴史教養番組『偉人・敗北からの教訓』はM3といわれる男性の50から65歳辺りの年齢層を中心にして、多くの視聴者にご視聴いただいております、当社の人気コンテンツの一つです。

また上期にはレギュラー番組の自社制作に加えて、特別番組も多数制作しました。『WBSC U-18 ベースボールワールドカップ』や、『BFA アジア選手権野球 日本対チャイニーズタイペイ』を放送し、非常に話題性の高い大型スポーツコンテンツとして、タイムセールス、スポットセールスをけん引する等、業績に貢献しました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



このほか新規視聴者の獲得を目的に、昭和の大スター・三波春夫さんの素顔に迫った『三波春夫 あなたに逢いたい』や、江口洋介さんが出演する音楽トーク番組『御茶ノ水 GUITAR SPIRITS!』等、多数展開しました。

2024年8月期 第1・第2四半期のトピックス

BS11 日本BS放送

I. コンテンツ価値の最大化

> コラボレーション施策

京都関連の紀行番組2番組を京都のローカル局を含む他局と共同で制作



制作著作 KBS京都/BS11



© KBS京都 / TOKYO MX / BS11

- ▶ 他局で放送中の京都紀行番組との差別化を実現
- ▶ 質の高い内容の番組を通常より安価で制作可能に
- ▶ 共同でのイベント展開や京都関連の特別番組の共同制作など新施策展開へ

四季に応じた特別番組を共同制作



制作著作 KBS京都/BS11



制作著作 KBS京都/BS11

共同で番組関連イベントを実施



動画配信サービスを展開する株 U-NEXTと協業



- ▶ ドラマ・スポーツジャンルを中心としたコンテンツの拡充
- ▶ 効率的な費用投下によるコンテンツの制作

© Nippon BS Broadcasting Corporation.

29

また、当社はネットワークに属さない独立放送局としての特徴を生かし、番組の共同制作をはじめ、他社とのコラボレーションを積極的に行っております。京都といえばBS11という、ブランド力もかなり上がってきたかと思えます。京都の魅力を発信する紀行教養番組、『京都浪漫 悠久の物語』はKBS 京都放送と一緒に共同で番組制作をしており、女優の常盤貴子さんが出演している『京都画報』という番組は、京都放送に加えて東京メトロポリタンテレビジョン、東京 MX と3社で番組を制作しております。

この二つの番組はそれぞれの独自のネットワークを活用することによって、京都をテーマにした数ある紀行番組の中でも、かなり高画質な映像と内容の質の高さが評判となっており、当社の人気コンテンツとしてご好評いただいている次第です。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

SCRIPTS
 Asia's Meetings, Globally

さらに他社との協業では、去年 10 月より動画配信サービスの U-NEXT と協業し、世界のスポーツコンテンツから一押し映像をお届けするスポーツ番組、『ワールドスポーツ CLIP! Supported by U-NEXT』の放送を行ったほか、U-NEXT で話題の韓国ドラマを放送するドラマ枠、『韓流セレクション Supported by U-NEXT』も新設しております。

こうした他局、他社様とのコラボレーション施策は、制作コストの低減ばかりでなく、番組クオリティの向上と双方で、非常に効果的であると判断しております。今後も系列ネットワークに縛られない当社だからこそできる施策としてこうした協業は広く進めてまいりたいと思っております。

コンテンツの制作に加えて、当社では調達も積極的に行っております。BS の主な視聴者層といわれる M3/F3、M4/F4 は、男女とも 50 歳以上の方であり、そういった層と親和性の高い国内ドラマ、中国時代劇、ヨーロッパミステリー、韓国ドラマといったドラマコンテンツの調達はもちろん、映画やキッズアニメ、スポーツなど、先ほどの 50 歳以上にかかわらない、幅広い層に人気のあるコンテンツも積極的に調達し、編成することによって視聴者ニーズの充足に努めようとしております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



III.放送周辺事業の強化と発展

➤アニメ関連施策(アニメ関連番組の放送)

《製作委員会への出資作品(2023年10月~2024年2月)》



©春原ロビンソン・ひらけい/集英社・国王軍第三騎士団



©向日英・高上優里子/双葉社・もふなで製作委員会



©藤孝剛志/アース・スター エンターテイメント
即死テート製作委員会



©佐竹幸典・講談社/「魔女と野獣」製作委員会



計18作品に参加



➔開局来のアニメ作品の放送を継続し、「アニメのBS11」として認知が拡大

➔アニソンやアニメ関連のエンタメをテーマにした番組を放送することで、アニメファンの囲い込みを図る

© Nippon BS Broadcasting Corporation.

31

続きまして当社の人気ジャンル、アニメ関連コンテンツへの取り組みをご紹介します。当社は開局以来、アニメ作品の放送を積極的に実施しております。現在でも毎クール40タイトル以上のアニメ関連番組を放送しておりまして、地上波ネットワーク、BS無料放送の中でもトップクラスの数でございます。

ご覧いただいているスライドの上部には、上期に放送した作品のうち、当社が出資した作品の一部を掲載しています。上期に放送したアニメ作品のうち、18のタイトルで製作委員会に参加している次第です。

さらにエンタメ総合情報番組『アニゲー☆イレブン!』や、歌手の森口博子さんがMCを務めるアニメソング番組『Anison Days』も放送しており、アニメファンの多様なニーズに合わせた番組を制作・放送している次第です。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasiam.com

III.放送周辺事業の強化と発展

▶アニメ関連施策(イベントへの出展等)

全国各地のアニメイベントへの出展

・マチ★アソビvol.27 開催地:徳島県徳島市

・北九州ポップカルチャーフェス 開催地:福岡県北九州市



KPF2023
北九州ポップカルチャーフェスティバル2023



→全国一歩というBSの強みを活かした、地方のアニメファンの認知を拡大

→激化するアニメ製作委員会への参画競争に対応すべく、各委員会へ当社が参画した場合の付加価値をPRする機会として活用

アニメイベントの主催



© Animelo Summer Live 2023

・Animelo Summer Live2023-AXEL- 開催地:さいたまスーパーアリーナ

2021年より3年連続で主催として開催したアニソンイベント

18回目を迎える今回は、3日間のイベントで延べ65,000人を動員

→視聴者・クライアントに対して、アニメに親和性のある局としての認知を拡大

このほか、番組、コンテンツの放送だけでなく、アニメに関してはアニメイベントへの出展といった放送外の取り組みも行っております。10月には徳島市のアニメイベント「マチ★アソビ」や、11月には福岡県北九州市で開催された「北九州ポップカルチャーフェス」に出展いたしました。

こうした地方でのアニメイベントに出展してアピールすることは、地方のアニメファンへの認知の拡大、あるいは全国各地の視聴者様との貴重な接点として、非常に貴重な機会だと思っております。今後も積極的に実施してまいりたいと考えております。

このほか、過去3年実施しておりますが、去年7月には株式会社ドワンゴ、文化放送との3社共同で、日本最大のアニソンフェス「Animelo Summer Live」を開催いたしました。この内容は大晦日に、ライブの様様を当社独占で放送しております。

アニメ関連施策としてイベント等を幅広く実施した効果もあり、「アニメのBS11」というブランド力・認知度も上昇していると考えております。

今後も開局以来、長年アニメ業界との関係値や信頼関係を築き上げてきた協力関係を今後も生かし、積極的に放送等の展開を行って、当社の強みをより生かしていきたいと考えております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

III.放送周辺事業の強化と発展

＜コンテンツのマルチ展開＞

BS11
放送コンテンツ

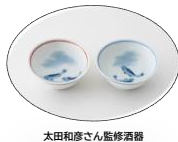


○関連グッズの企画・販売

BS11 SHOP



じゅういちちゃん 今治タオル ハンカチ



太田和彦さん監修酒器



太田和彦さん描き下ろし書籍掲載用
イラスト使用でぬい

この他、番組関連グッズや
BS11オリジナルグッズを
多数販売中

○自社PFでの配信

BS11+

○外部PFでの配信

YouTube U-NEXT TVer
FOD VideoMarket
ビデオマーケット

○記事サイトの活用

BS11+
トピックス

自社配信PF「BS11+」で配信するコンテンツを
記事化して、コンテンツの魅力を発信するサイト
「BS11+トピックス」を開設。

→記事サイトからBS11+へのサイト訪問効果は開設当初から5倍以上に

- 引き続き放送事業を収益の軸としながらデジタル分野の収益を拡大
- 若年層を中心とした新規視聴者とのタッチポイントを増やす
- 企画段階で多面的な展開を視野に入れたコンテンツ制作力の強化

続きまして、配信放送周辺事業についてご紹介いたします。当社では放送したコンテンツ、あるいは番組について、自社および外部のプラットフォーム、記事サイト、通販サイトなど、マルチに展開しております。

インターネット広告が台頭する中で、放送事業収入を収益の柱としながらも、配信や通販といった、デジタル分野での新たな収益の確保に取り組んでまいりたいと考えております。こうした取り組みは、インターネットの利用頻度が高い若年層を中心とした、新規視聴者の獲得、あるいは番組ファンを拡大していくための施策としても、効果を発揮していると考えております。

当社の配信、イベントに関する施策について、詳しくご説明いたします。まずは配信です。テレビで放送したコンテンツを自社、および外部の配信プラットフォームで有料、無料にて配信いたしております。

主な配信先としては、無料の見逃し配信や課金による見放題配信を実施している、当社独自のプラットフォーム、BS11+、それから無料BSということではナンバーワンとなっております、27万

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

人の登録者数があります BS11 公式 YouTube チャンネル。また、民放ポータルサイト TVer での配信も 2023 年 5 月から開始しており、さまざまなプラットフォームも活用しています。

2024年8月期 第1・第2四半期のトピックス

BS11日本BS放送

Ⅲ. 放送周辺事業の強化と発展

➤ 配信の取り組み

BS11
放送コンテンツ



○ 自社PFでの配信

BS11+プラス

- ・ 放送した番組の見逃し配信
- ・ 月額見放題プランでのアーカイブ配信

○ 外部PFでの配信

YouTube 登録者数：約27万人 ※BS局ナンバーワン

TVer U-NEXT

FOD VideoMarket ビデオマーケット

主な配信コンテンツ



© Nippon BS Broadcasting Corporation.

35

また近年は放送番組にとどまらず、配信でしか見ることのできないオリジナルコンテンツの制作にも注力しています。歴史教養番組『偉人・敗北からの教訓』の収録では入り切らなかったアフタートークをまとめたコンテンツ『偉人・こぼれ話』や、社内の公募企画で入社2年目の若手社員が発案し制作した企画『アドベンチャーワールドのパンダたち』といった、幅広いジャンルのコンテンツを制作・配信しております。この『アドベンチャーワールドのパンダたち』は、配信を念頭にスタートしましたが、3月には深夜枠でテレビ放送する等、非常に幅広く展開できたと思います。こうしたことが人材育成、あるいはコンテンツ開発能力の底上げに対して有効な取り組みであると考えており、これからも様々な可能性を探っていきたいと思っております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



Ⅲ.放送周辺事業の強化と発展

＞イベントの推進

リアル・オンラインイベント



公開収録



(株)文化放送との協業



- ・各番組の視聴者と出演者との交流をはじめとした直接的なタッチポイントの創出
- ・他社・他局と共同でイベントを開催することで、効率的なコスト投下によるイベント開催を実現
- ・イベント開催を視野に入れた番組の企画、コンテンツの多面的な展開による収益拡大

当社のイベント企画についてご説明します。当社では旅行番組や報道番組、あるいはアニメ番組等、幅広いジャンルの番組関連イベントを展開しております。こうしたイベントは局の認知、番組の認知の拡大だけでなく、企業とのタイアップ案件の獲得といった収益拡大機会への取り組みとしても、貢献していると思っております。

文化放送とのコラボレーション施策として実施しているラジオコンテンツ『ワールドダイスター RADIO★わらじ』では、その関連イベントも実施いたしております。こうした他社、他局とのイベント協業は、規模の追求とともにコスト効率化の両面で貢献していると考えております。

サポート

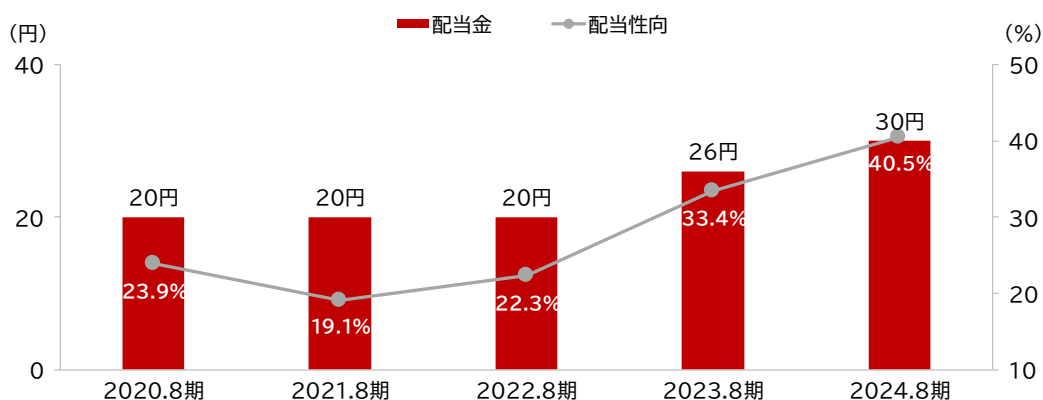
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

2024年8月期は、期末配当金 30.0円を計画

～2024年8月期の1株当たり配当額を前期より4円引き上げ～

配当方針について

- ・ 企業価値の向上や持続的な発展に向け成長を確保する一方で、株主等ステークホルダーの期待に応えられるよう、経営資源の適切な配分を行い、配当性向40%程度を基準として、株主還元の拡充を図っていく方針です。
- ・ 年1回の期末配当を行うことを基本とします。



© Nippon BS Broadcasting Corporation.

38

最後に、配当についてご説明いたします。24年8月期は前年に比べて4円の増配とし、期末配当を30円とする計画です。その結果、24年8月期の予想配当性向はおよそ40%となっております。

当社は2023年8月期から株主優待制度を廃止し、配当による株主還元に一本化しております。基本的には株主の皆様への公平・公正な利益配分をこれからも目指してまいります。

その背景としまして、最近の放送業界をめぐる経営環境が大きく変化し、ネットとの競争環境に備えるべく、これまで内部留保の拡充や財務体質の強化を進めてまいりましたが、これまでに一定程度の財務体質の強化が実現できたと判断しております。

今後につきましては企業価値の向上、あるいは持続的な発展に向けて成長を確保するのは当然のこと、ステークホルダー、とりわけ株主の皆様のご期待に応えられるよう、経営資源や利益等の適切な配分をしっかりと行ってまいりたいと考えております。

以上をもちまして、24年8月期第2四半期の業績についてのご説明を終了いたします。ご清聴ありがとうございました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、SCRIPTS Asia 株式会社（以下、「当社」という）は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて利用者の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して利用者が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

